

2001.2.4.

伊勢国府跡



ちょうじゃやしきいせき
長者屋敷遺跡発掘調査（第12次・9年目）現地説明会資料

- 調査場所** 三重県鈴鹿市広瀬町字中起・荒子
調査期間 平成12年10月1日～平成13年3月11日
調査主体 鈴鹿市教育委員会
調査担当 鈴鹿市考古博物館
調査面積 約1100㎡
調査目的 伊勢国府跡の範囲確認（学術調査）

はじめに

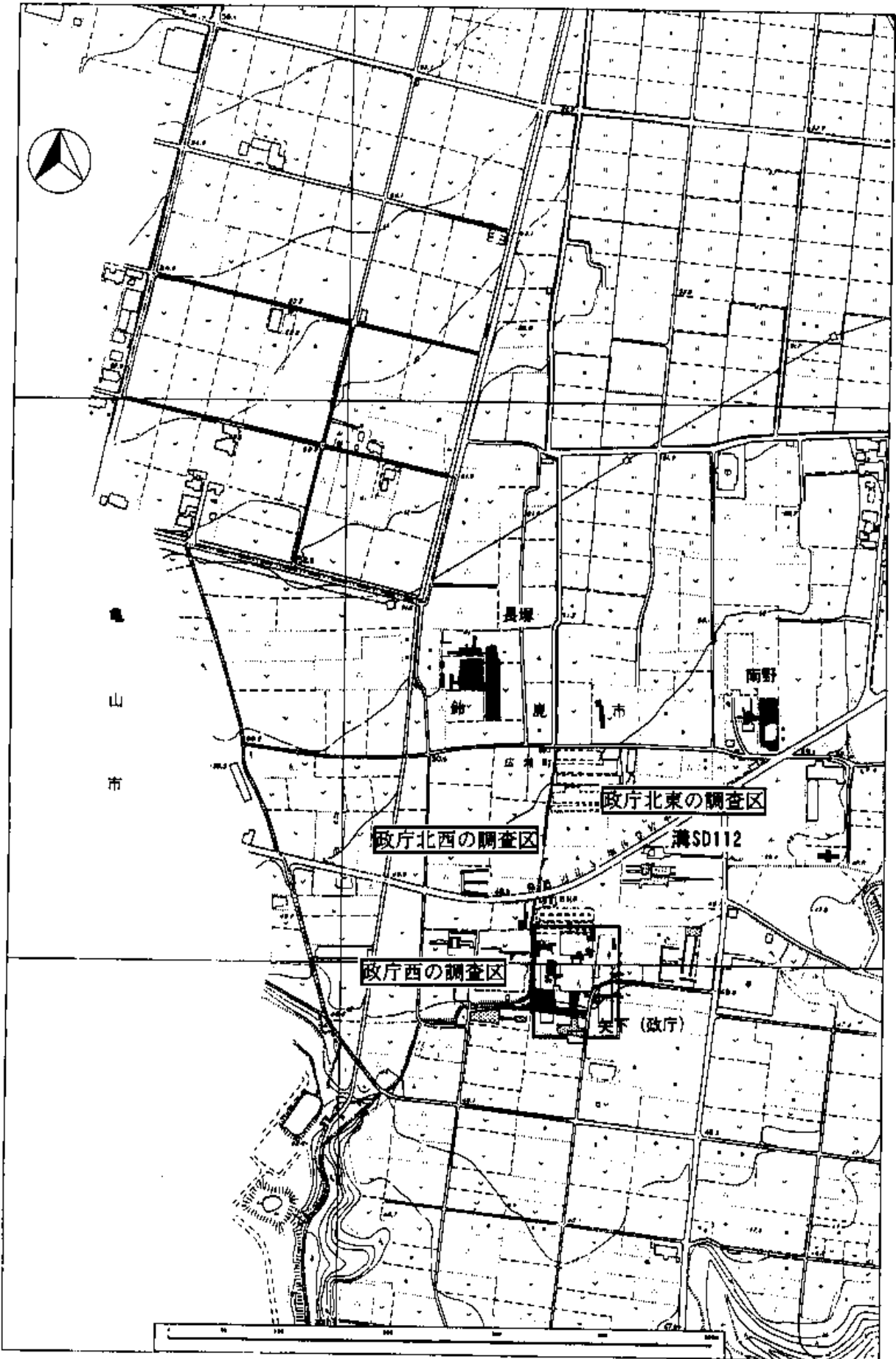
鈴鹿市広瀬町にある長者屋敷遺跡は奈良時代の中頃に設けられた伊勢国府^{いせこくふ}のあとです。瓦などの散布から東西600m・南北800mの広大な範囲に及ぶものと推定されています。国府^{こくふ}とは国ごとに置かれた古代の役所で、同じく国ごとに建てられたものに国分寺^{こくぶんじ}があります。国分寺が建物基壇を現代によく残し、所在がわかりやすいのに対して、国府^{こくふ}は建物の痕跡をとどめることが少ないため地名などを頼りに研究が進められてきました。鈴鹿市には広瀬町から安楽川・鈴鹿川を挟んだ対岸に「国府^{こくふ}」という地名があるため、かつては国府町がもっぱら伊勢国府の所在地であると考えられてきました。昭和32年にはじめて長者屋敷遺跡の調査を実施した故藤岡謙二郎さんは長者屋敷遺跡を軍団を兼ねた初期国府と推定し、平安時代以降国府町へ国府が移転したものと考えました。

鈴鹿市教育委員会では平成4年に発掘調査に着手し、国府の中心的な施設である政庁の確認や国司の館などと推定される建物群を調査してきました。政庁やその他の建物はほとんどが瓦葺きの建物です。政庁跡には今も1mほどの高まりとして正殿・後殿・脇殿などの基壇が残っており、全国的にみて



鈴鹿川流域の遺跡 (縮尺 1 : 10万)

1	伊勢国府遺跡	10	国府A遺跡	19	岡田遺跡	27	須賀木遺跡
2	(長者屋敷分定遺跡)	11	(三毛神社遺跡)	20	(河曲山)	28	大上遺跡
3	(伊勢寺遺跡)	12	(伊勢国府推定地)	21	山木	29	深田遺跡
4	伊勢寺遺跡	13	天王山遺跡	22	南浦	30	双土遺跡
5	(伊勢寺遺跡)	14	梅田遺跡	23	(大園)	31	天王遺跡
6	伊勢寺遺跡	15	津賀平遺跡	24	(尼寺)	32	天王遺跡
7	伊勢寺遺跡	16	大野古墳	25	(推分)	33	天王遺跡
8	伊勢寺遺跡	17	川原井遺跡	26	山	34	天王遺跡
9	伊勢寺遺跡	18	山の原遺跡				



調査区位置図 (縮尺 1 : 5,000)

も極めて貴重な遺跡です。

調査の成果

政庁西の調査区（6AHI-CF）－「西院」の発見

政庁は築地塀に囲まれ、その規模はおおよそ南北 100 m・東西 80 mであることがわかっています。今回はその西における遺構の広がりを確認するため調査を実施しました。その結果、南北に平行して掘られた溝が2条見つかりました。東側の溝SD104は幅約 2.5 m、西側の溝SD105は幅 2.3 mで、深さはともに 70 cmです。これらの溝と過去に見つかった溝（溝SD11・103など）を結ぶと政庁に匹敵するほどの大きな区画になることがわかりました。平行する2条の溝にはさまれた部分には、築地塀や土塁のような遮蔽施設があったようで、その崩れた土が両方の溝に流れ込んでいます。区画の全体規模は南北 100 m・東西 77 mで、「政庁西院」と仮称することができます。この区画の南寄りには11次調査で見つかった建物SB91が含まれます。

溝SD104からは須恵器小壺や瓦片・土師器片が出土しました。

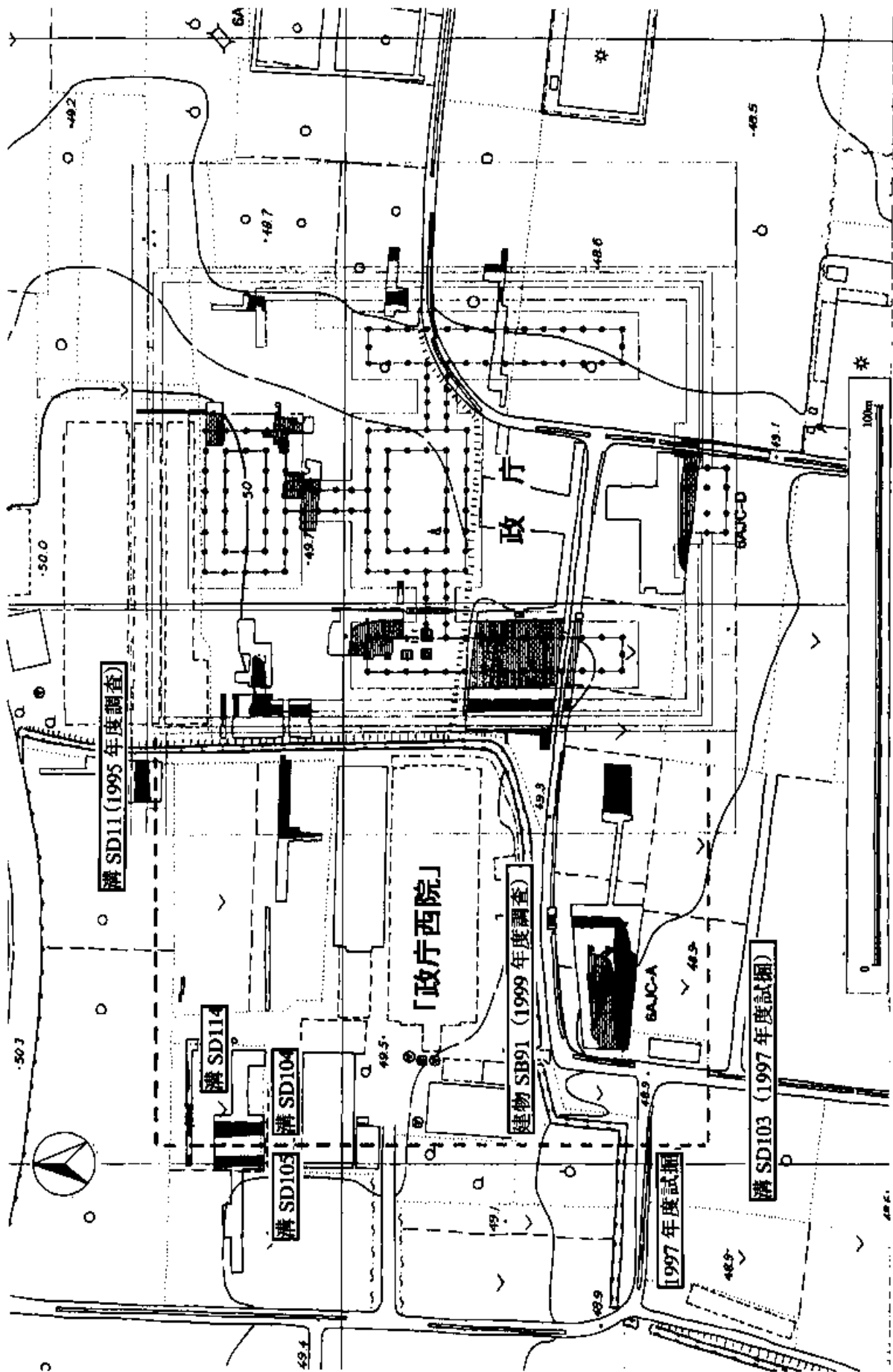
政庁北西の調査区（6AHE-B）

建物や溝のあとなどは発見されませんでした。このような空白地の確認も国府全体を考える上で大きな成果のひとつといえます。

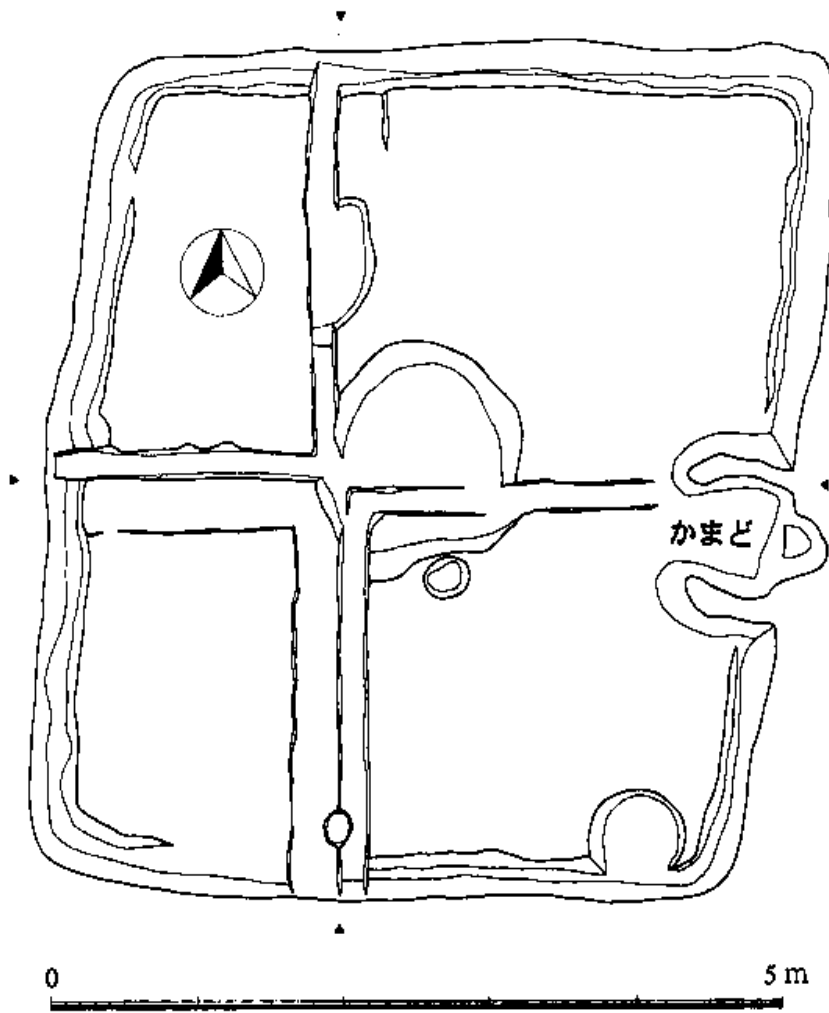
政庁北東の調査区（6AID-CDEH）－たてあなじゅうきょ 竪穴住居と ほったてばしらたてもの 掘立柱建物

政庁の北東約 70 mのところでは竪穴住居ST106が見つかりました。東西 5 m・南北 6 mの方形で、東にかまどがあります。ややひずんだ形をしているので、他の国府の建物と同様に正方位を意識して建てられているのか、あるいは方向を変えているのかはつきりしません。出土した土師器や須恵器から8世紀後半のものと考えられます。国府の格式の高い建物で使われていたと思われる鬼瓦の破片や漆状の付着物が見られる須恵器も出土しています。この遺跡では、北西部で平成8年度に調査された2例に次いで3例目の竪穴住居となりました。

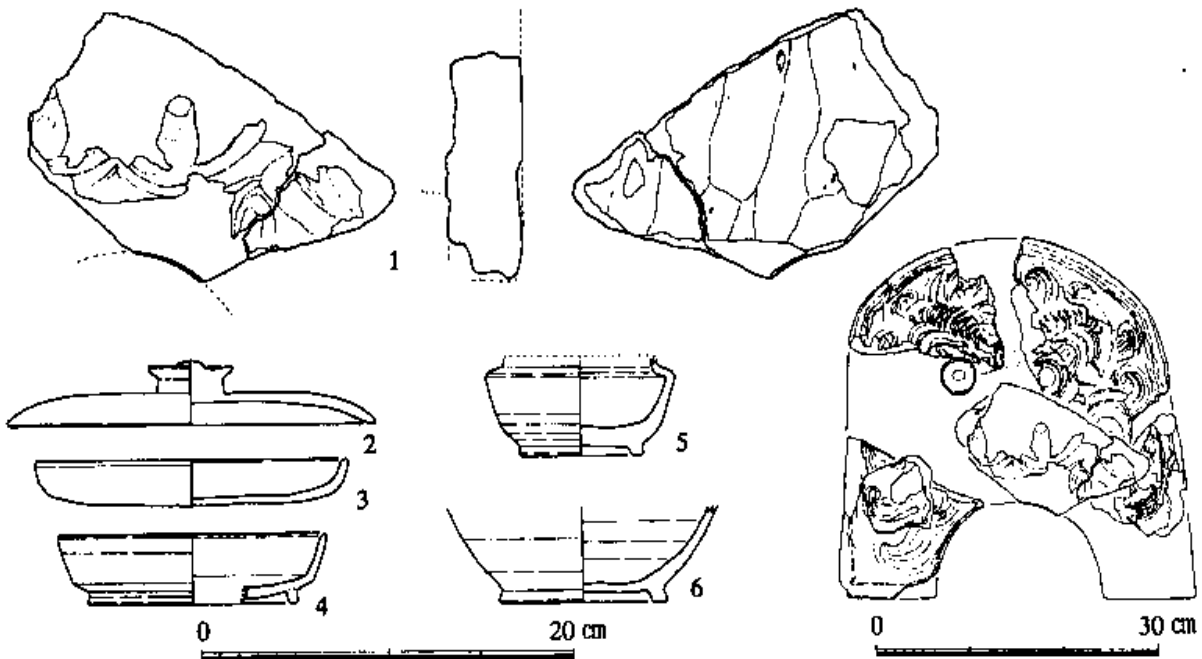
竪穴住居の南からは掘立柱建物SB113が見つかりました。東へ10度ほど傾いて建てられており、ほぼ正方位に従って建てられている政庁やその



政庁西の調査区 (縮尺 1 : 1,000)



竪穴住居ST106 (縮尺1:50)

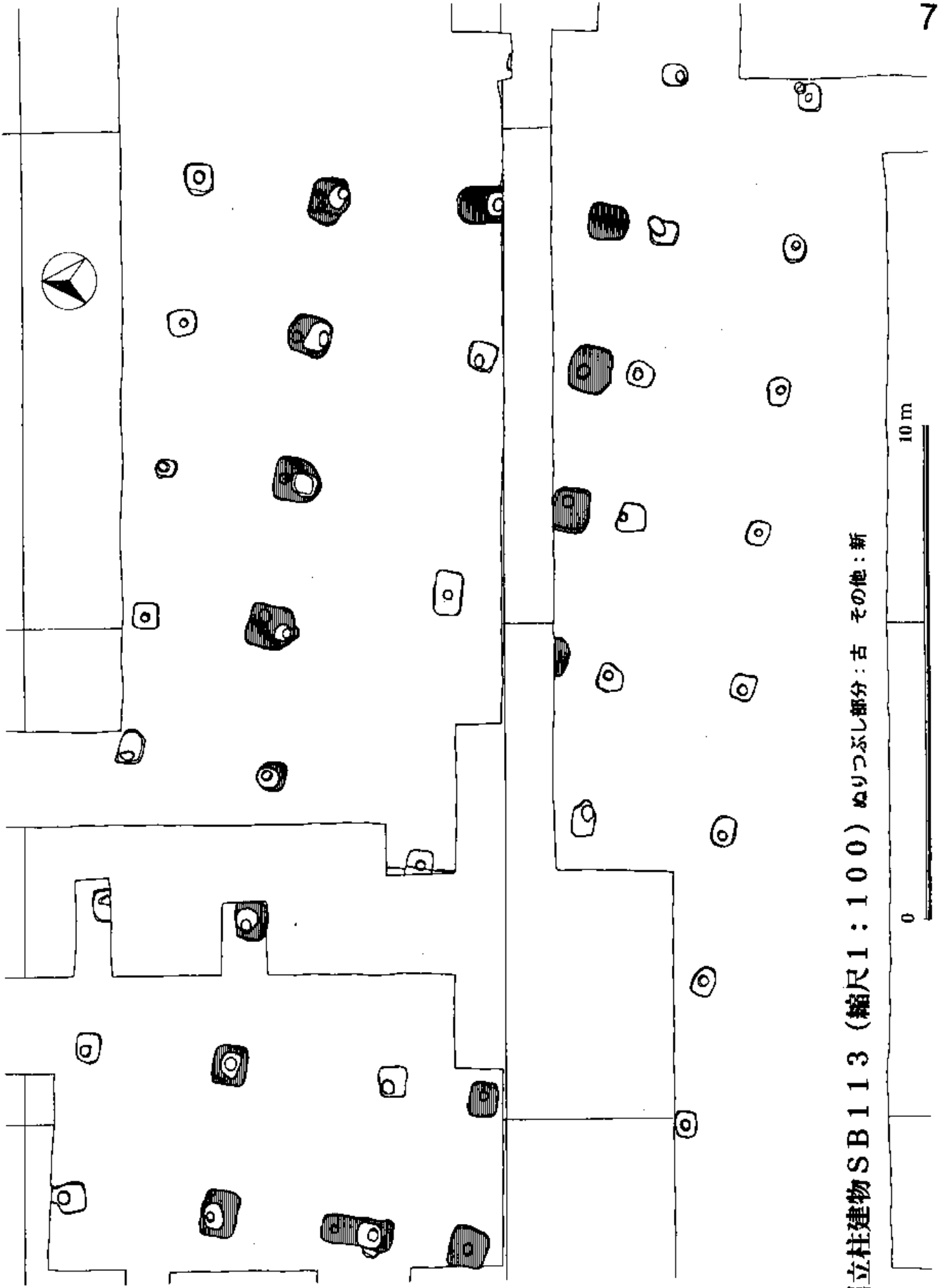


出土遺物 (縮尺1:4)

鬼瓦片集合図 (縮尺1:8)

1. 鬼瓦 2. 土師器蓋 3. 土師器皿 4. 須恵器坏 5. 須恵器小壺 6. 須恵器瓶

(1~4・6: ST106, 5: SD104出土)



掘立柱建物SB113 (縮尺1:100) ぬりつぶし部分:古 その他:新

他の建物とは大きく向きが異なっています。東西7間×南北2間から東西7間×南北4間（21 m×12.6 m）の建物に建て替えられています（「間」は長さの単位ではなく、柱と柱の間がいくつあるかを指します）。大規模な建物とはいえませんが、柱穴や柱の痕跡が小さいのが特徴です。この遺跡では、平成8年度に長塚地区で見つかった1例に次いで2例目の掘立柱建物の検出例となりました。

その他SB113の東には性格不明の柱穴が列をなして3か所見つけられました。SB113に付属するものなのか、塀なのか、あるいは別の掘立柱建物なのかははっきりしません。さらに調査区の東寄りから幅14 m・深さ90 cmの南北溝SD112が見つかっています。

まとめ

溝SD104・105の発見により明らかとなった「政庁西院」によく似た例として近江国庁の東における建物区画があります。伊勢・近江はともに畿内近国の大国であることから政庁の建物配置だけでなく、付属施設にも類似性があるものと理解されます。「政庁西院」の性格を知る手がかりは今のところありませんが、儀式・饗宴の場として国府の中でも特に高い格式を有する政庁の機能を一部分掌し、さらには饗応など付加的な機能を受け持っていたことが想像されます。

政庁の北東で見つかった竪穴住居や掘立柱建物は、政庁にごく近接していることから国府関連の施設としては意外な成果でした。とくに掘立柱建物は棟方向が政庁をはじめとする他の建物と大きく異なり、柱も小さく、国府の中枢に関わるものとは考えられません。長者屋敷遺跡における国府存続期間の中でも末期に位置づけられる仮設的な施設であろうと考えられます。

調査に際し以下の皆様にお世話になりました。記して感謝申し上げます。（敬称略）

〔調査協力〕 森敏彦 谷川次雄 長尾光博 麻生直 田中清治 広瀬町自治会 西富田町自治会 中富田町の山自治会 中富田町の町自治会 近隣地権者及び耕作者の皆様 〔調査指導〕 八賀晋 高瀬要一 渡辺寛 川越俊一 文化庁文化財保護部記念物課 三重県教育委員会生涯学習課文化財保護室 三重県埋蔵文化財センター

〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町224 鈴鹿市考古博物館 Phone: 0593-74-1994

e-mail: kouko@city.suzuka.mie.jp URL: <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/>